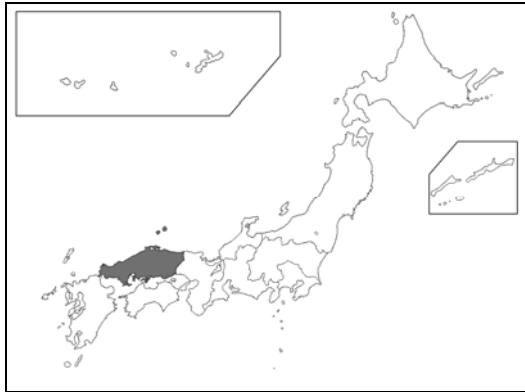


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

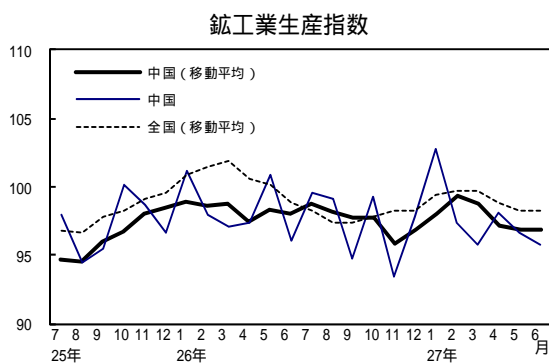
前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年5月)	今回(平成27年8月)	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

4～6月期には、輸送機械は、自動車海外生産の増加や軽自動車の内需低迷から減少した。化学は、生産プラントの定期修理などから減少した。はん用・生産用・業務用機械は、生産設備などの生産が引き続き堅調で増加した。鉄鋼は、在庫調整のため減少した。電子部品・デバイスは、アジア向け輸出の不振などから減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	23.5	9.8	2.6	6.6	2.1	6.3
化学	16.4	1.7	4.2	5.5	3.6	6.1
はん用・生産用・業務用機械	11.2	0.2	9.5	38.0	1.3	6.2
鉄鋼	7.7	1.2	5.6	4.7	0.2	2.1
電子部品・デバイス	7.1	2.3	2.4	1.5	1.7	1.3
鉱工業	100.0	2.0	1.8	2.4	1.4	0.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。

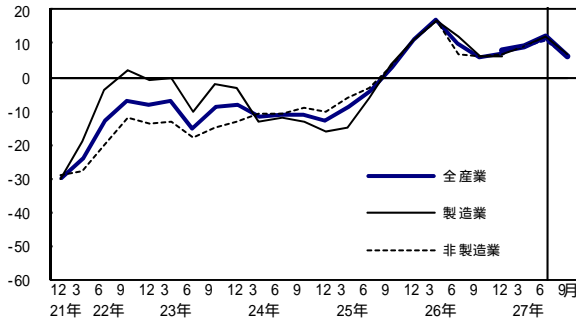
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

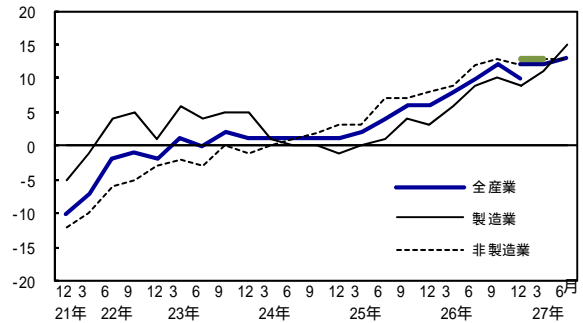
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



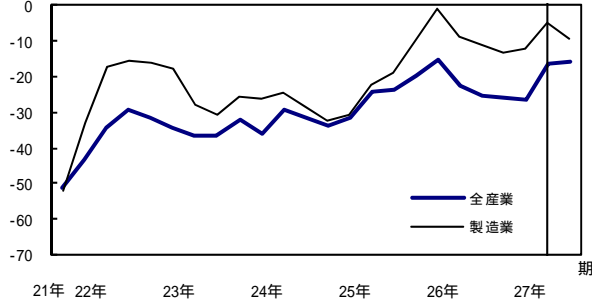
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



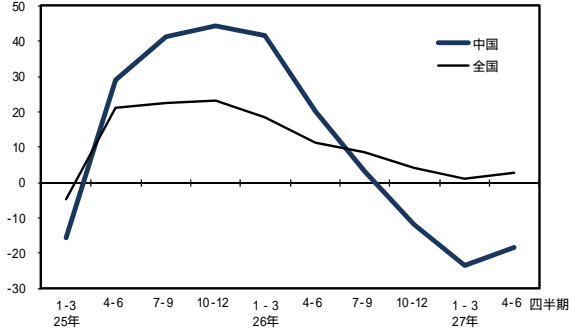
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「客先の状況は先月に続き荷動きが低調で、在庫も高水準である。回復に期待感もあったが、まだ低位継続の様相である(鉄鋼業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、大幅に減少している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績	27年度計画
全産業	8.4 (3.1)	6.4 (1.8)
製造業	13.8 (1.7)	6.8 (1.5)
非製造業	1.6 (5.0)	5.8 (2.2)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

(8) 中国

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.8%減、5月は同0.5%減、6月は同0.5%減となった。

大型小売店販売額

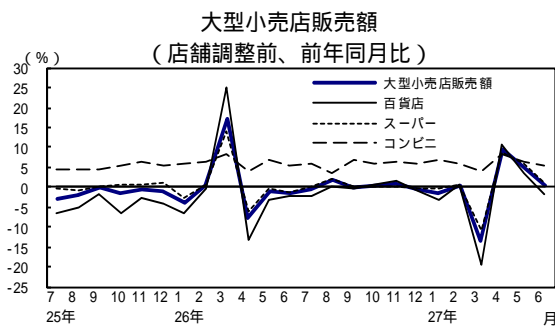
百貨店は、4月は、前年の消費税増税前の駆け込み需要の反動減に対し、前年を大幅に上回った。5月は、婦人服の販売が低調であったが、化粧品、時計などの販売が好調で前年を上回った。6月は、衣料品や身の回り品の販売が低調で、前年をやや下回った。

スーパーは、精肉や野菜など生鮮食品の価格上昇で飲食料品の売上が伸びており、全体として前年同期を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、50.9となり前月より1.3ポイント上昇した。

「7月は台風の影響により客数は減少しているが、客単価が上昇して、売上は前年を超えている。また高単価のコースが前年に比べて多く出る傾向にある(一般レストラン)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

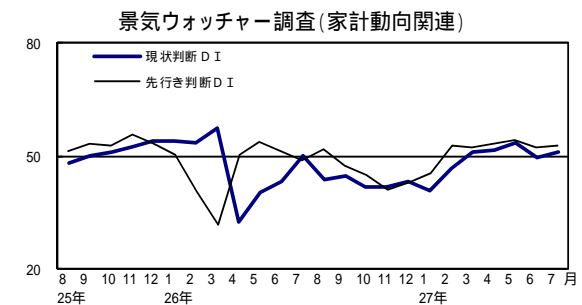
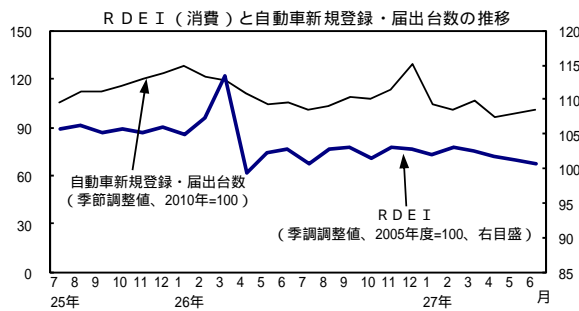


	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.3	0.8	0.5	0.5
大型小売店(*2)	4.8	9.3	5.2	0.3
百貨店(*2)	3.8	10.5	3.7	1.5
スーパー(*2)	5.1	8.8	5.8	1.1
コンビニ(*2)	6.8	8.5	6.5	5.4
乗用車(*3)	7.6	11.1	8.4	4.3
(季節調整値)(*3)	5.1	9.5	2.4	2.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

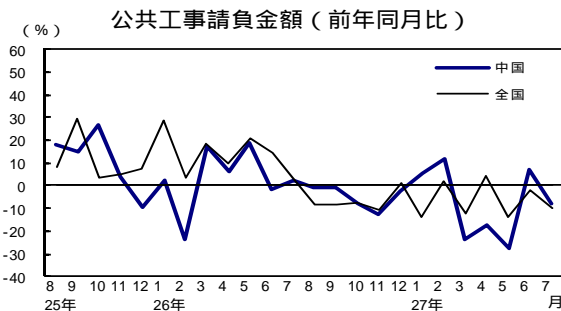
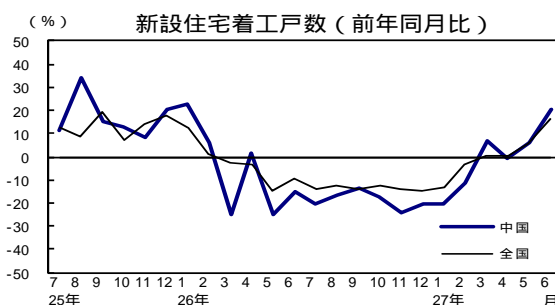
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は、大幅に増加している。

持家、貸家、分譲ともに前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は、27年度累計で見ると前年度を下回っている。

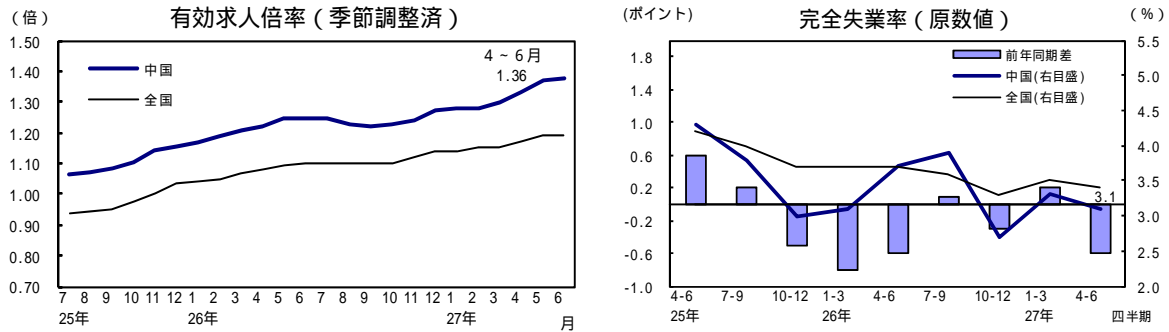


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

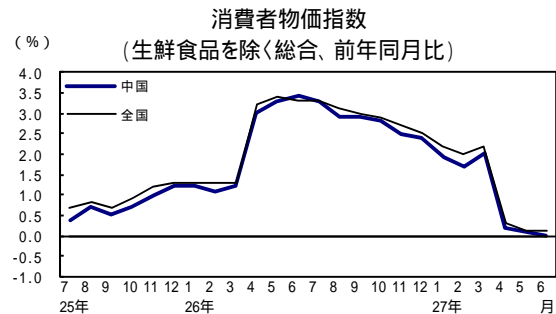
「従業員の多くをパートやアルバイトでまかなっていた事業所が、1人でも2人でも正社員にしなければ、パートさえ確保できないと意識するようになってきた。景気回復で従業員確保がじわじわと難しくなっている証左である (新聞社[求人広告])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額おおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	108	107	119	92	33
(前年比)	10.7	3.6	2.5	16.4	28.3
負債総額	170	101	265	163	30
(前年比)	4.1	51.1	24.3	0.1	27.4



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・自動車用部品を製造しているが、増産対応で非常に忙しい (輸送用機械器具製造業)。

<先行き>

・地方では相変わらず収入が増加しない一方で、食料品を中心に値上げが続いており、消費者の低価格志向が強い (商店街)。

